

POINT 3 は種後に水の駆け引きを容易にするコツ

額縁明きよ



額縁明きよは、は種前の施工が基本ですが、ローター式溝掘機の場合は掘った土を散らすことができるためは種後も施工可能です。

溝切部分施工



滞水しやすい枕地と額縁明きよを繋ぐような施工が効果的です。

乾田直播の苗立には水の駆け引きが大変重要になります。

27Pにも記載した額縁明きよは必ず施工しましょう！

さらに、溝ぎりやブームスプレーヤなどでの空走りも額縁明きよと併用すると効果的です。



ブームスプレーヤなどでの空走り



は種後に初入水したときの田植機やブームスプレーヤでの空走りは水路にもなるので、水の駆け引きもしやすくなり便利です。必ず排水に繋げるように施工しましょう。

サブソイラの施工



は種後もサブソイラを施工することで、地下灌漑などでの水の駆け引きを容易にします。施工は暗きよと交わるようにゆっくりと行いましょう。

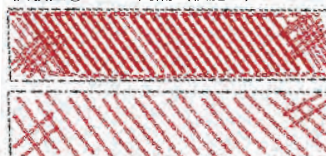
COLUMN

## コラム 地下灌漑を利用したは種後の水管理

集中管理孔が整備されたほ場では、地下灌漑を利用することで、均一な水管理が容易になり、水をひたひた状態に維持しやすく、出芽率の向上に繋がるためオススメです。より効果的に活用するため、水を均一に上昇させることを目的に、振興局調整課で行った試験結果(令和元年)を紹介します。※土壌処理剤使用予定の場合、地下灌漑での入水は控えましょう。

### 施工間隔別の効果

試験区① 1.4m間隔 (秋施工)



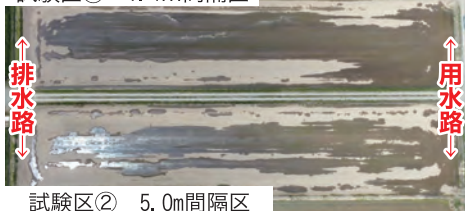
試験区② 5.0m間隔 (秋施工)

施工機械: サブソイラ (ウィング付)

#### 地下灌漑で入水

入水30時間経過

試験区① 1.4m間隔区



試験区② 5.0m間隔区

秋施工で施工間隔の違いは判然としなかった。

### 施工時期別の効果

試験区① 秋+春施工 (4.0m間隔)



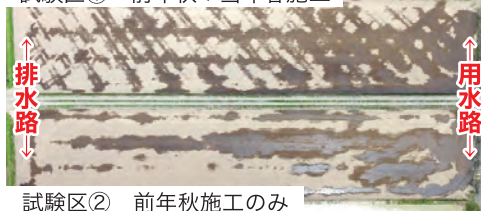
試験区② 秋施工 (4.0m間隔)

施工機械: ハーフソイラ (弾丸付)

#### 地下灌漑で入水

入水25時間経過

試験区① 前年秋+当年春施工



試験区② 前年秋施工のみ

春施工を行うと、水の上昇が均一だった。

地下灌漑の使用には、春にも心土破碎(5m間隔程度)を行うと効果的です。

空知総合振興局 産業振興部  
調整課ホームページ



## 8 出芽後の水管理

### POINT 1 出芽ラインの確認

5月1日には種を実施



5月29日 出芽を確認

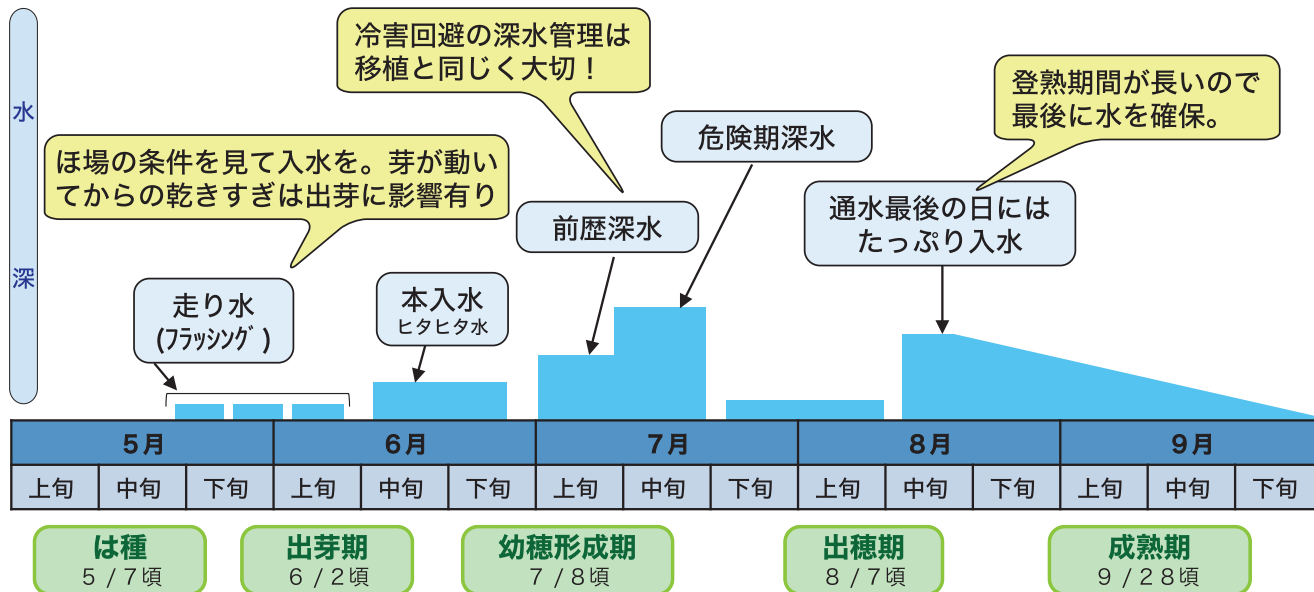
約2週間

6月13日 はっきりとラインが出る

出芽後、約2週間ではっきりとラインが確認されます。その間、全体的に土が湿った状況にして、水分の補給と地温の上昇を促し、未出芽の種籾も出芽しやすい環境を作りましょう。

目安はマット育苗の水管理です。走り水(フラッシング)を行って種籾の周辺に水分がある状態を維持し、乾燥しすぎないように管理をしましょう。

○は種から収穫期まで（水深イメージ）





**POINT 2** 除草体系に合わせた水管理**(1) ラウンドアップマックスロード出芽前処理**

薬害対策として、ほ場表面が白くなるまで乾燥させてから散布しましょう。

2回まで散布可能なため雑草の密度が高い場合・越年株が見えている場合には早いうちに1回目の散布を実施しましょう。

湿潤状態での散布は土中の発芽粉が枯死してしまう恐れがあるので、散布時にはほ場が乾くように水の管理をしましょう。散布後の入水は翌日以降に実施しましょう。

**(2) ノミニー液剤**

落水して茎葉散布を実施しましょう。高い効果を確保するには、施用前:湿潤 → 施用時:湿潤 → 施用後:湿潤

といった条件が最適となります。散布後の入水は3日後以降に実施しましょう(実際には作業的に「乾」→「湿」→「湿」となることが多いですが)。

雑草の生育が旺盛になる条件が効果を高めますので、畑雑草に対しては過度な入水は避けることをお勧めします。

**(3) クリンチャーEW**

落水して茎葉散布を実施しましょう。散布後の入水は3日後以降に実施しましょう。乗用管理機での散布は入水口・落水口と繋げることでタイヤの跡が通水路としても活用できます。



ドリフト厳禁!! 無風を狙いましょう



ノミニーの効果でしっかり黄化する

#### (4) クリンチャーバス・ワイドアタックSC

落水もしくはごく浅く湛水して茎葉散布を実施しましょう。  
発生雑草に応じて薬剤の選択をしましょう。  
散布後の入水は3日後以降に実施しましょう。

#### (5) 一発剤処理(移植における中後期剤を使用する場合も同じ)

水深は3～5cmがとされていますが減水深を考慮し、田面露出防止のため、8cm程度の水深としましょう。田面が露出すると処理層が形成されず効果が発揮されません。処理層形成のため、薬剤散布後3～4日は湛水状態を保つようにしましょう。

水持ちが悪く、どうしても入水が必要な場合には、出来る限り静かに入水し、処理層を壊さないようにしましょう。

北海道の直播栽培では、は種深度が浅いため、薬剤が根部に接触しやすくなります。また、稲の葉齢が若い時期の処理の場合、水深が浅くなり、薬剤濃度が濃くなります。どちらも使用薬剤によっては薬害の原因となりますので注意しましょう。



水持ちが問題なければ移植同様にラジコンボートでの除草剤散布も出来るね



#### COLUMN

### コラム 一発処理剤の使用には集中管理孔の活用の検討を

乾田直播栽培の実施において、漏水対策は重要な課題となってきます。畑地からの輪作を実施することも多いため、水持ちが悪いといった話を耳にすることが多くあります。

集中管理孔が整備されているほ場では、集中管理孔を活用し、地下水位を常に高くすることにより、減水深を少なくしていくことを試みてみませんか？水持ちも良くなり、肥料効率・除草剤の効果アップが見込めると思います。

ずっと転作をしていた場合、畔が脆くなっていることもありますので、活用の際には注意が必要です。

